

7/13(土)~8/31(土)

サマーフェア開催中

展示会のご案内

◇展示資料館 1F (7/27~9/4)

ボタニカルアート作品展

◇展示温室 (7/20~8/18)

世界の食虫植物展

センノウ (ナデシコ科)

中国原産の多年草で、室町時代の初期に渡来したとされています。夏の茶花として親しまれているほか、旧暦の七夕(8月7日)ころに咲き、キキョウと並んで七夕の花合わせに用いられたことから、七夕節のことを仙節(仙翁花の節)とも言います。

トキワススキ (イネ科)

冬になっても葉が枯れないので、別名カンススキ(寒薄)。ススキよりも大型で花期も早く、7月には咲き始めます。県内では沿岸部の暖地に自生していますが、数が減っています。

ダシリリオン

(キジカクシ科)

米国~メキシコの乾燥地帯原産。植物園では4年ぶり、5回目の開花になり、5mにもなる花穂を上げています。

マニラヤシ (ヤシ科)

フィリピン原産(固有種)の中形のヤシ。果実が冬に赤く色づくことから、別名クリスマスパーム。大温室前のワシントンヤシモドキにも花がついています。

ヒマワリ (キク科)

カスケードと花の迷路に矮性(株丈20cm~1m)の品種を約1200株植えています。花は小型ですが集合写真にお勧めです。

マンデビラ (キョウチクトウ科)

中南米原産のつる性植物で、花を次々に咲かせます。緑のカーテンにも用いられます。

シナサワグルミ (クルミ科)

中国原産の落葉高木。公園樹に用いられます。名前にクルミとありますが、食べられません。果実の周りには、プロペラのような幅2,3mmの翼(よく)が広がっており、風で遠くまで運ばれます。

オミナエシ

(オミナエシ科)

秋の七草として知られていますが、実際の花期は盛夏です。日当たりの良い草地に黄色の花を咲かせ、独特の香りがあります。

コウホネ (スイレン科)

日本・朝鮮半島に自生する水生植物で、水底に骨の様に見える太い地下茎があります。花の様に見えるのは、5枚のがく片で本当の花弁はその内側にあるリボン状の所です。花の中心の柱頭盤が赤色を帯びるサイジョウコウホネは東広島が基準産地です。

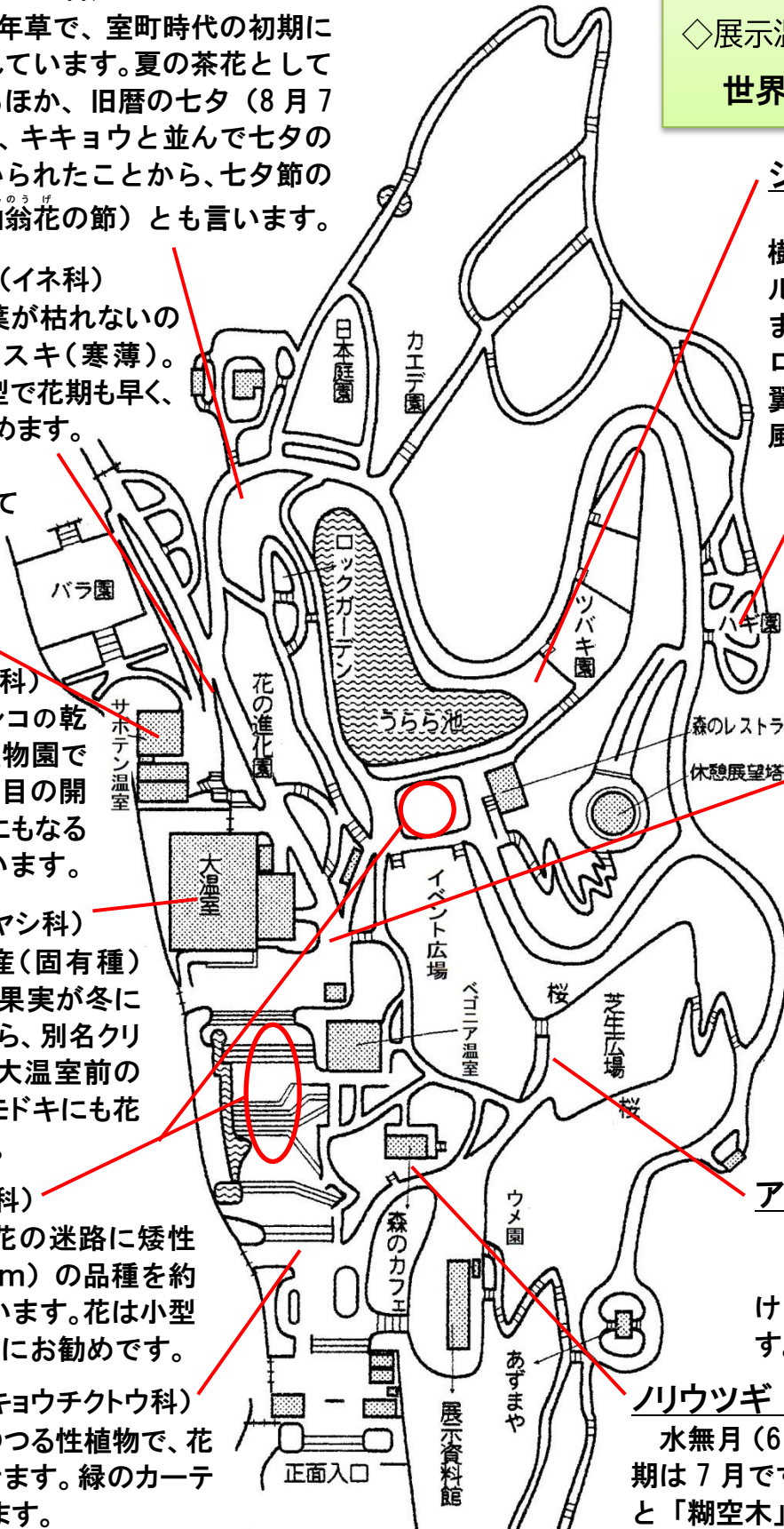
アメリカノウゼンガズラ

(ノウゼンガズラ科)

落葉つる性木本。夏~秋にかけて赤色の大きな花を付けます。夏の季語にもなっています。

ノリウツギ "ミナヅキ" (アジサイ科)

水無月(6月)という品種名ですが、花期は7月です。ノリウツギを漢字で書くと「糊空木」、紙すきの糊に使われます。



✿毎週土・日曜日・祝日 午後1時半~3時20分は、ガイドボランティアが園内を案内します✿

✿毎月第2火曜日・第4土曜日 午前11時~は、職員による植物うんちくガイドを実施します✿